夏の企画展

戦争の時代

戦時を生きた女性たち

空襲に備え、防火訓練に励む女性たち（椎田駅前）

綱敷天満宮前で防空訓練する女性
（海辺からの敵兵上陸に備える/昭和17年）

椎田高等実業女学校卒業アルバム（現築上西高/昭和14年）

2025.7.23［水］▸▸9.7［日］

会 場／船迫窯跡公園体験学習館

時 間／9：00～17：00（月曜休館/入場無料）

＊入館は16：30まで。 ＊8/11（月）は開館。翌日12日（火）休館。

夏休みイベント

昆虫博士と行く

夜の昆虫観察会

夜の船迫窯跡公園で光に集まる虫を観察。
雨天時は館内で講師による昆虫のお話を聞きます。

電話申込が必要

日時 2025年7月26日㊏
18時30分集合
（20時30分頃解散予定）

講師 小野 正則 氏
（添田町自然観察クラブ「ミミズク」会員）

定員 30人
＊中学生以下は保護者同伴。申込先着順。

没後10年 同時開催（エントランスホール）

福田安次氏と平和の木たち

旧寒田小学校の被爆エノキ二世と兄弟たち

旧寒田小学校（2004年閉校）に根を張るエノキの木。
広島で原爆投下時に被爆した木の二世と子どもたちの交流ものがたり。
パネルや絵本などを展示。
会場と会期は「戦争の時代展」と同じです。

旧寒田小学校のエノキ
（令和5年10月撮影）

主催：築上町教育委員会/申込・問合せ：船迫窯跡公園（☎0930-52-3771）

この印刷物は築城飛行場関連再編関連特別事業で制作しました。

長かった戦時下の生活を耐え抜き、日常を支えた女性の活躍を残された資料から解き明かす

Ⅰ. 戦争の時代へ－日中戦争と太平洋戦争

日中戦争 戦勝祈願旗行列
（昼は旗行列、夜は提灯行列で祝った）

昭和恐慌を契機に国内経済の行き詰りを打破するため、中国大陸に資源と市場拡大を求めた日本は、昭和6年（1931）、関東軍が自ら仕組んだ南満洲鉄道爆破事件を契機に、軍事行動を拡大し、半年ほどで中国東北部を占領し、満州国を建国した。（満州事変）

昭和12年、南に進出する関東軍が、満州国と中国との国境付近（北京郊外）で中国軍と衝突（盧溝橋事件）し、日中戦争が始まった。

昭和14年、第二次世界大戦が始まると、日本はヨーロッパの支配が手薄になった東南アジアに進出し、アメリカ、イギリスの中国への支援ルートを遮断しようとするが、屑鉄・石油全面輸出禁止など対日経済封鎖により戦線は膠着した。

日本国内でも昭和16年（1941）10月に乗用車の石油使用が全面禁止され、燃料不足の危機感から対アメリカ開戦が声高に叫ばれ始めた。

12月8日、日本海軍がハワイ・オワフ島の真珠湾を奇襲攻撃し、日本陸軍はマレー半島などアジア太平洋各地で一斉に軍事活動を開始し、アメリカ、イギリスに宣戦を布告し、太平洋戦争が始まった。

Ⅱ. 銃後を守る－女性の活躍

戦線拡大に伴い、20歳以上の男性が次々に戦地へ出征すると、その労働力不足を女性や子どもたちが補った。

昭和16年（1941）、「国民勤労報国協力令」により、14～25歳までの未婚女性に年間30日間の労働奉仕義務が課された。さらに昭和19年（1944）には「女子挺身勤労令」が出され、12～40歳までの女性に1年間の勤労が義務付けられた。築上郡では、高等女学校や実業女学校の生徒も動員され、農作業に従事したほか、50人で1隊を編成し、学校教員が3名程度で引率し、豊前市宇島の蚕糸工場や山田弾薬庫（現北九州市小倉北区）などに1回に2週間程度、動員された。

また大日本国防婦人会（のちに大日本婦人会）のタスキ掛け女性たちが出征兵士の見送りや、戦地の兵士への慰問袋作成、残された家族の世話をした。戦死者の遺骨の出迎えも中心的に行った。

当時の女性雑誌『主婦の友』等には化粧から燃料節約法まで、戦時を生きる細かい知恵が提言されている。

稲刈りを手伝う
椎田高等実業女学校生徒

国防婦人会の女性たちに
見送られ出征

国防婦人会の女性たち
（築上町小原）

戦時中の女性雑誌
『主婦の友』『日本婦人』

Ⅲ. 築城海軍航空隊と兵士の（母への）手紙

築城海軍航空隊飛行場は昭和14年（1939）に起工し、昭和17年に完成した。大戦末期の昭和20年3月には零戦隊、銀河隊、中間練習機隊、高角砲隊など、各方面の派遣隊で3,000人を超す兵士がいて、兵舎が不足し、築上町内の民家に多くの若い兵士が下宿した。下宿先では若い兵士を我が子のように世話する女性の姿もあった。兵士たちは他基地への転勤や出撃前に、下宿の母へ感謝を込めて、自身の写真や手紙を残した。

昭和20年3月18日には、築城飛行場から神風特別攻撃隊菊水部隊銀河隊（銀河11型機）6機が離陸し、うち5機が九州南東海上のアメリカ軍機動部隊艦船に体当たり攻撃を行い、15人の兵士が亡くなった。その一人、西山典郎少尉の遺書には母をはじめ家族への想いが綴られる。

椎田で下宿した兵士が遺した写真
（裏には名前やメッセージがある）

銀河隊を見送る兵士たち

神風特攻隊菊水部隊銀河隊出撃之地碑
（航空自衛隊築城基地内/非公開）

Ⅳ. 空襲と戦時のくらし、そして終戦へ

戦時のくらし

昭和19年（1944）6月、北九州の官営八幡製鉄所を狙った空襲があり、築上町内でも空襲に備えた防火訓練や、上陸したアメリカ軍兵士と戦う竹槍訓練が行われた。

また兵器製造のため、寺の釣鐘や仏具など金属製品が戦時供出され、赤幡や椎田浜宮の松林では航空機の代用燃料として松根油製造の原料、松脂が採取された。兵員不足を補うため、臨時召集令状（赤紙）により多くの民間人や学生が戦地へ送られた。食糧の配給は十分でなく、米は水量を増やし、芋・豆・雑穀を混ぜ、また芋蔓や南瓜の種、茶殻等食べられるものはすべて食糧とした。

築城海軍航空隊への空襲

昭和20年（1945）3月から8月まで7回空襲に遭った。特に8月7日の空襲では、重箱池周辺で作業中の民間人多数と37人の兵士が死亡した。上城井国民学校（築上町本庄）では機銃掃射で教師・児童4人が死亡し、数人が負傷した。翌8日（地元証言9日）、局地戦闘機「紫電改」がアメリカ軍小型戦闘機4機と戦闘の末、小原に墜落し、乗員が死亡した。

防火訓練（延塚記念館前/昭和17年）
（指揮者以外はすべて女性）

仏具供出（築上町上ノ河内/昭和17年）

現在の重箱池（横井塚池/西八田）

太平洋戦争戦死者慰霊碑（上城井小）